後輩の皆さんへ応援メッセージ

「就職活動」体験記

厳しい就職戦線のなか、内定を得た４年次生６人に就職活動をどうとらえたか、自分なりに工夫した点、うまくいかなかったときにどう乗り越えたか、就職課をどのように活用したかなど、後輩たちへの応援メッセージをもらった。

６人いれば６通りの方法があるが、共通しているのは「学生生活を充実させ、熱く語れるものをたくさん持とう」ということだ。就職活動をスタートさせる前に、まずそのことを大切にしてほしい。そして、自信を持って就職活動に臨んでほしい。

人と話すことで「新しい自分」発見

経済学科、内山哲朗ゼミ＝三菱鉛筆

都合により写真は掲載いたしません

野﨑　翔子さん

一番の壁にぶつかったのは2月ごろでした。就職活動を共にしている友人に「毎日説明会に参加している」と聞き、先輩にも「2月は毎日説明会に参加して、1日3社くらい行っていた」ことを聞いて、焦ってとにかく説明会の予定を入れました。慣れない満員電車に乗り、毎日毎日、遠出することは、思っていた以上に自分の体力を削っていきました。

しかし、その悩みを友人に話したとき、何に焦っているのかを考えたほうがいいという助言をもらい、人と比べているから、焦っているのだと気づきました。それからは、人が説明会に参加しているから行くのではなく、自分に必要かどうかを考えてスケジュールを立てることにし、説明会参加はほどほどにして、就職課に通うようにしました。

また、説明会に参加するのと同時に会に参加するのと同時にエントリーシートも書かなくてはならず、それもほとんど書けない状態が続きました。それがさらに自分を追い込んでいき、すべてがうまくいかない状態に追い込まれていきました。

また、説明会に参加するのと同時に3社回ったこともありました。

絞らないことで業界・企業研究が中途半端になる――と思われるかとも思いますが、人よりも早めに動き出すこと、そして友人と情報を共有することで十分にカバーできると感じました。ピンときた企業があれば、とにかく「自分の目で確かめに行く、生の情報を見て聞く」ことで、自分に合う企業や社風というものがつかめてくるのではないかと思います。足を運んで得た情報は、志望動機を書く際に必ず役に立ちます。

また、説明会への参加と同時進行で、自分を見つめ直すことにも時間をかけました。過去のエピソードを洗いざらい出し、その中で自分を効果的にアピールできるものを探します。特別なエピソードはいりません。そのエピソードにはどんな思いで、どんな目標を持って取り組んでいたのか、そこから今に生きているもの、学んだものは何か、そしてそれをどう企業で生かせるのか――自信を持って、この3つを言うことができれば大丈夫！

就職活動はあきらめたらそこで試合終了です。あきらめなければ、最後には満足のいく就職活動だった、と感じられると思います。妥協を許さず、貪欲（どんよく）に。ファイト！

チャンス逃がさず、まず行動を

人文学科、江頭説子ゼミ＝トーメンエレクトロニクス

都合により写真は掲載いたしません

北澤万里奈さん

3年次の8月末から就活を始めましたが、既に5月から始めている人もいることを知り正直、焦りました。そこで、できる限り企業のセミナー、大学主催の就活イベントに参加するようにしました。中でも11月に開かれた総合就職合宿研修会は、特にお勧めです。企業の人事部の方と模擬面接をし、評価もしてくれるので早いうちから自分の強みや弱みを発見することができました。

面接は「早めに10社落ちた方がいい」と言われるくらい、場数を踏むことが重要だと思います。私自身、何社も経験していくうちに、伝えたいことをうまく伝えられるようになり、面接官の心をつかみ、時には笑いも起きるまでになりました。

就活で大切にしてきたことは「少しのチャンスも逃さない行動力」です。実際に70社の説明会に足を運び、OG訪問を14人にしました。人気のある企業は「1分」で説明会の予約が埋まることもあります。しかし、ここであきらめてはいけません！

電話をかければ受け入れてくれる企業もあり、それでも駄目な場合は当日、直接会場に足を運びましょう。たいてい快く受け入れてくれます。

ESであっけなく落とされても、第一志望の最終面接で落とされても、「私をとらないなんて、この会社惜しいことしたな」とポジティブに自分を奮い立たせ、次に進みました。大学は4年間。仕事は40年間。就職は人生において最も重要な選択です。悩んで立ち止まる暇があったら「就職課に行ってみる！　話してみる！　そして企業にアタックしてみる！」ことです。

「軸」見つけて思いを伝えよう

法律学科、梅本吉彦ゼミ＝足利銀行

都合により写真は掲載いたしません

塩田　淳史さん

活動を始めた10月ごろは、どうすればいいか、まったく分かりませんでした。そこで私が行ったことは、誰よりも「動く」ことでした。机で、人間力が強く求められる仕事」というものです。

高校時代、硬式野球部で学生コーチを行った経験から、対話を通じて、相手の「思い」を感じ取り、実現に向け努力する難しさ、達成できた時の喜びを学びました。多くの企業の話を聞くうち、面接やエントリーシート（ES）対策のため、毎日、就職課に通いました。言葉・文字に魂を込め、思いが伝わるかをスタッフの方に見てもらい、自信を持って面接会場に向かいました。

それでも落ちてしまう企業、思いが伝わり、より私を知ろうとしてくれる企業…。一喜一憂することもありました。しかし、絶対に軸は曲げませんでした。

後輩の皆さんにアドバイスです。まずは、自分がどのように働きたいのか、軸を見つけてください。軸があれば、自分の言葉で答えることができ、結果は必ずついてきます。つらいこと、苦しいこともありますが、自信を持って、納得いく就職活動にしてください。

あきらめたら「試合終了」

経営学科、水尾順一ゼミ＝ロッテ

都合により写真は掲載いたしません

石川　卓弥さん

「妥協しない」

これは私が就職活動をする上で、常に頭に置いていたことです。就職活動の仕方は人それぞれですが、私はとにかく業界や企業を絞ることなく、説明会に足を運び続けました。手帳を見返してみると、2月は休みなく毎

（イラスト協力・漫画研究同好会）

当たり前の体験伝えた

マーケティング学科、小林守ゼミ＝中外製薬

都合により写真は掲載いたしません

島　俊一さん

「自分なりにできることを全力でやる」。就職活動を通じて、マイペースを貫くことが大切だと実感しました。なぜなら数多くある企業の中から最終的には一つに選ばなくてはなりません。また、「就職氷河期」という言葉を耳にしていたため、厳しいと思われる状況の中でも自分の納得いく企業を見つけたいと感じたためです。そこで、初めから志望業界を一つに絞るのではなく、少しでも興味を持った業界・企業の説明会に足を運び、自分の目で確かめ、肌で感じようとしました。

説明会に参加した際には、同じ就活生、社員の方と積極的にコミュニケーションを取ることで多くの情報を入手し、働く自分をイメージすることを心がけてきました。その結果、今まで以上に自分と向き合うことができ、「本当に働きたいと思える企業」にめぐり会うことができました。

面接でも自分らしさを出すことが大切だと思います。留学する・資格をとるといった特別な体験をしてきたわけではありませんが、ごく普通のことでも当たり前にこなすように心掛けたことで「素の自分」というものを発揮できたのだと思います。もちろん、貴重な体験をしてきた方は、その体験で何を得たのかを振り返り、就職活動においての強みとして自信を持って伝えてください。

就職活動に不安を抱いている方も多くいることだと思います。だからこそ独自の「就活スタイル」を築いてもらいたいです。自分を信じて、がむしゃらに取り組むことが、成功への第一歩だと思います。

充実の学生生活しっかり伝えよう

ネットワーク情報学科、砂原由和プロジェクト＝エヌ・ティ・ティ・データ

都合により写真は掲載いたしません

大澤　幸さん

「目を輝かせながら語れるエピソードをあなたは持っていますか？」私はこれが就活必勝法だと思います。まずは学生時代にしかできないことを「向上心を持って夢中にやること」。そして自分の経験を自分の言葉で自分らしく面接官に伝えること。この2つができれば必ず結果はついてくると確信しました。

私が語り続けたことは「ライフセービング活動」です。最も力を注いだこと、1番苦しかったことをどう乗り越えたか、仲間との関係や、コミュニケーションをとったり両立を心掛けました。生きていれば、一瞬一瞬が就職活動でネタになるその人特有のエピソードなのです。就職活動は、かかわり方など、軸を持って熱く語りました。また就職活動中も練習に励み、2月には静岡県で行われた学生選手権に出場したり、仲間と会ってコミュニケーションをとったりと、両立を心掛けました。生きていれば、一瞬一瞬が就職活動でネタになるその人特有のエピソードなのです。就職活動は、恋愛と同じ原理だとよく言われます。自分を取りつくろっていてはのちのちボロが出てしまいます。ありのままの自分で個性あふれた経験を語り、熱い気持ちでアタックし続ければ、必ず夢をつかむことができるでしょう。

最後に…とはいっても就職活動をしていると、うまくいかない日が必ず訪れます。そんなとき思い出してほしい言葉は、「昨日の最悪を今日の最高に。そして明日は今日以上にしよう!!」

下を向いていても内定はGETできません。落ち込むのはその日1日限定で、失敗の悔しさをプラスにすることが大切です。皆さんにとって、Happyな就職活動になりますように☆応援しています。